高田本山だより

一期一会

降誕会での安楽庵茶席

106

伝灯奉告法会が円成しました

一光三尊仏御開扉法会

平成二十八年三月二十五日から二十七日までの三日間、宗祖親鸞聖人のみ教えを第二十四世鸞猷法主から第二十五世慈祥法主へと継承されたことを阿弥陀如来と聖人に奉告する法会が行われました。

法会中は、表白・縁儀式・記念講演があり、初日は稚児練りの後、他宗及びご親戚のご招待、二日目は、真宗各派御門主に来駕（らいが）をいただき、御出仕、御焼香をいただきました。三日目は御参廟の後、各派宗務総長にご来山いただきました。二日目、三日目はともに高田短大のイベントがおこなわれ、滞りなく法会を満了いたしました。

また、伝灯奉告記念の桜（ソメイヨシノ）を御影堂・如来堂前に十三本植樹しました。春の開花が楽しみであり、後々までも高田山専修寺の発展を見守ってくれることでしょう。

この法会の円成はひとえにご尽力いただきました住職・檀信徒の皆々様のお陰の賜物と厚くお礼申し上げます。

伝灯奉告法会事務局
局長　藤源　清光

本山において二年間親しくお給仕をしてまいりました一光三尊佛はこの三月末に本寺にお帰りあそばされました。

この間、本山における御開扉に際しては、遠近から多くのお同行が参詣されました。また、別院・一般寺院における出開帳は、本山での臨時御開扉を含めますと四十一カ所に及び各地で三尊様とのご縁を喜んでいただくことができました。

中開帳の時に三重県総合博物館で開催した「親鸞　高田本山専修寺の至宝」展では、本山所蔵の法宝物のみならず一般寺院が所蔵する一光三尊佛像の出陳を行うなど関係行事を通しても一光三尊佛や高田派の歴史を知っていただくことができたのも尊いことでした。

次の御開扉は十四年後となります。次回御開扉が、ますます盛況となることを願ってやみません。

第十九回御開扉が無事に終了することができましたのも檀信徒の皆様の御懇念の賜と厚く感謝を申し上げる次第です。どうもありがとうございました。

一光三尊佛御開扉事務局
局長　久野　俊彦

高田本山ってどんなところ？

なんとなく、ご本山だっていう気持ちはあっても、こんなところですと、きちんと説明できる人は少ないかもしれません。

専修寺というお寺としての役割と真宗高田派の本山としての役目が混在していますが、それぞれの中心は法会であったり、宗議会であったりします。

みなさまの目にはふれることがありませんが、少なくとも年に二度、宗議会が開催され、本山の運営について話し合われ、その結果にのっとり宗務総長が本山の運営をしているのです。

今号では特別にその宗議会の開会風景（写真下）をみなさまにお届けします。

新法主殿を中心に新たな歩みをはじめる高田本山。お同行のみなさまとともに、親鸞聖人がおすすめになった念佛の道を歩んでいきたいと思います。

婦人連合大会

婦人連合大会は今年も盛況です。女性の祖師寿の表彰も年々増えています。男性は降誕会にて表彰されます。

降誕会

ジュニアサミット

伊勢志摩サミットに先立ちジュニアサミットが開催され、高田本山に参加者のみなさんが立ち寄りました。

いろいろな行事がありました。

はなまつり

寺内町清掃の一環として本山も綺麗にしていただきました。そして聞法会のみなさんも大会を前に清掃です。

寺内町清掃

聞法会清掃

年々山門に上がられる方が増加する釈迦三尊さまの法会。階段が急なのでいつまで続けられるでしょうか。

釈迦三尊会

汗を流して清掃奉仕

ご奉仕ありがとうございます。

（敬称略）

二月　宣隆寺

三月　勝光寺・崇徳寺・光明寺・本立寺・林昌寺・迎接寺・光福寺

四月　念聲寺・宝珠寺・聖徳寺・金光寺・正信寺

五月　深藕寺・欣念寺・第３一寿会・蓮花寺・弘善寺・西運寺・佛教寺・台蓮寺

阿弥陀様のみもとで汗を流しませんか。ひとりひとりの力が合わさって本山も護持されています。お寺さまだけでなく一般の団体の方もご奉仕に来山いただいております。

お申し込み、お問い合わせは宗務院庶務部までお気軽にどうぞ。

WEB VERSION

お届け参り致しましょう

同じ高田派でも、地域によって風習が違うことはよくある話です。

もしも、お届け参りの習慣がないのでしたら、一度本山へのお届け参りを考えてみてはいかがでしょう。

本山納骨ともよばれるお届け参りは、宗祖親鸞聖人のもとにお同行さまがお浄土に往かれたご報告と、真宗念佛に遇えた喜びを申し上げる大事なご縁です。

本山納骨と表現されることで、お墓への納骨がわりに本山へと思ってしまう人もおられますが、お墓への納骨とはまったく意味あいが違うことを忘れないでいただきたいと思います。

ご遺骨の最終的な行き場ではなく、浄土往生の報告をする場なのです。

極端にいえば、お骨そのもは全部お墓に収めてしまって、法名だけたずさえて本山納骨に訪れ、親鸞聖人に報告にあがることもその趣旨にかないます。

お墓があるから、本山納骨をする必要がないとか、お手次のお寺に別に収めるところがあるから必要がないということではないのです。

お念仏の同行として、ひとりひとりが少しでも親鸞聖人のおそばにという情熱を形にしたものが本山納骨のお届け参りといえるのではないでしょうか。

幾多の戦乱をこえて、本寺から本山へと、まちがいなく親鸞聖人のご遺骨を護持しつづけている高田本山へのお届けまいりを大切に思っていただければ幸いです。

余談にはなりますが、高田本山への本山納骨は高田派のお同行さまだけがお届けしていただくことができます。各宗派にも似たような習俗がある場合がありますが、それぞれお届け先が異なりますので、ご注意ください。

本山納骨（お届け参り）のお知らせ

一般納骨、納骨壇納骨の二通りの方法があります

どちらも、九時から十五時の間に総合案内所で受付ます。詳しくは総合案内所までお尋ねください。　電話０５９・２３２・７２３４

WEB VERSION

「誕生」

釈尊シリーズ③

今から二千五百年ほど前の四月八日、ルンビニー（インドの北、現在のネパール）の花園で太子（釈尊）がお生まれになりました。母マーヤー夫人は里帰り出産の途中休息をとり、その時急に産気づき出産されたと伝えられます。

太子は生まれるとすぐ七歩歩かれ、右手で天を指し左手で地を指さして「天上天下唯我独尊」と声高らかに宣言され、その時、天は感動し甘露の雨を降らせた、と伝えられています。釈尊ご誕生の伝説です。

しかし実際は「オギャー」に決まっているかと思われます。

それではなぜこのような伝説が伝えられるのでしょうか。

七歩の歩みは、六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上）を超え、後に佛陀（目覚めた者）になられたことを伝えられます。

「天上天下…」の産声は、ナンバーワンではなくオンリーワン。他の誰も代わることの出来ない尊いいのちの歩みの宣言です。

甘露の雨は、釈尊の誕生を人間だけではなく、大自然・大宇宙が喜んだということを表しています。この伝説により、花御堂に安置された釈尊誕生佛に甘茶を注ぎ礼拝する花まつり（灌佛会）が、釈尊誕生のお祝いとして各地で勤められています。

伝説は、本当にあったかなかったかではなく、その伝説の伝える真意を受け取ることが大切なのです。

如来所以興出世
唯説弥陀本願海

（如来世に興出したまう所以は、唯弥陀本願海を説かんとなり）

親鸞聖人は『正信偈』に、釈尊がこの世にお生まれくださったゆえんは、ひとえに阿弥陀如来の本願をお説きくださるためであったとお讃えになります。

さて、赤ちゃんの産声は世界共通語と言われています。皆、約440Hzのラ音だそうです。世界中の誰もが幸せになることを願い同じ言葉で「オギャー」と生まれてくるのでしょう。

釈尊は、その世界中の誰もが本当の幸せになる真実のみ教えをお説きくださるためにご誕生されました。

凡夫である私の人生においては、釈尊のみ教えを仰ぎ、唯聴くことこそが一大事であります。

（教学院第三部会）

桜町天皇御感得の一光三尊佛さまのご開帳は毎年6月の第二日曜日。京都別院にて行われます。

WEB VERSION

リレー法話

いのち

～いのちの受け止め方～

京都別院輪番
京都安立寺住職
安田　真源

娘は、忙しすぎるくらい走って二十一年間を急いで過ごしてしまったのかもしれない。その死を無駄にしないように、事故を起こす様なバス会社であってはならない。と考えて頂く機会にしていただければ娘の死も報われるのではないか。そして怒りで後ろ向きになるより前向きでいたい。

スキーバス事故の被害者の母親が、テレビのインタビューに気丈に答えられてるのを見た時、少し違和感を覚えた。それは、泣き叫んだり、泣き崩れたり、怒りに包まれてるのが普通だと思っていたからかもしれない。

でも、何故と考えた。

泣いたり怒りの感情を爆発させる事は、亡くなった方の為なのか。自分の為なのか。そうする事で亡くなった方を悼む気持ちが疎かになってないのか。

もし自分が先立つ立場であればどう思うであろうか。また亡くなられた方に残された者が出来る事は何なんだろうか。と考えると、怒りで後ろ向きになるより前向きでいたい。という母親の言葉の意味が分かる気がする。

私は、住職としてお葬式にお参りした時にも違和感を感じる事があります。　それは、喪主さんが故人に対して我慢してきたとか、長年仕えてきたとか文句の様な事を話される事があるのです。

でも決して本心とは思えない。あたかも怒りで寂しさや悲しみを紛らわせようとされてるかのようなのです。

先日、この事故をネット検索すると「言ってる意味が分からないとか、心が壊れているから冷静に話せるのじゃないか」と母親に対するバッシングの嵐であった。娘を亡くした被害者になぜ暴言が吐けるのか。きっと悲しい事や辛い経験をしたことが無く人の痛みが分からないのだろう。

亡くなった人を悼む気持ちも、愛するという事も自分の感情を押しつける事では無く、ただ何よりも大切に想う事。

被害者の母親は、急逝した娘を想い、いのちを受け止めようとされたのではないだろうか。

WEB VERSION

第90回仏教文化講座

於 高田会館ホール

【第1日】8月1日（月）9時半より開講式

法主殿御親講

【第2日】8月2日（火）9時より

環境問題（科学）と仏教

講師：大東文化大学非常勤講師　白山（しらやま）肇（はじめ）先生

【第3日】8月3日（水）9時より

念仏もうす生活

講師：大谷大学教授　一楽（いちらく）真（まこと）先生

【第4日】8月4日（木）9時より

御仏の心に出会う

講師：東洋大学学長　竹村（たけむら）牧男（まきお）先生

【第5日】8月5日（金）9時より

描かれた真宗世界

講師：妙源寺衆徒　高田短期大学仏教教育研究センター研究員　安藤（あんどう）章仁（しょうじん）先生

仏教文化講座は当日受付・聴講無料でどなたでもご参加いたけます。また宝物館の特別展観も同時開催いたします。

地震お見舞い申し上げます。

東北の復興も半ばという中、九州でも地震被害があり、些少ではありますが、本山から義捐金を中日新聞社を通じてお届けさせていただきました。

寺院名

●行事案内

六月二十五日～二十六日　高田派青年の集い北海道大会

七月二十八日～二十九日　歴史まるごと体験塾（小学生教化合宿）

八月一日～五日　第九十回仏教文化講座

八月十四日～十六日　歓喜会

九月十日～十二日　堯秀上人三百五十年忌法会　堯円上人三百年忌法会

九月十九日～二十五日　讃佛会

三重県津市一身田町2819
真宗高田派本山専修寺
高田本山
Senjuji